

平成30年度 学校自己評価システムシート (県立熊谷農業高等学校)

目指す学校像	命を育み知を磨く学舎づくり (農業各分野の担い手・技術者と、地域を担う人材の育成)
重点目標	1 基本的な生活習慣の確立 2 基礎学力の定着を図る学習指導の充実 3 希望進路実現を図る指導の充実 4 開かれた学校づくりの推進

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	4名
	生徒	5名
	事務局(教職員)	9名

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価					年度評価(2月1日現在)	
年度目標					年度評価(2月1日現在)	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度 次年度への課題と改善策
1	継続的な指導により頭髪・服装違反、遅刻者は減少している。引き続き、基本的な生活習慣を確立し、主体的に高校生活を送らせるために、徹底した継続指導を行う。 そして、社会的秩序を保ち、マナーや他者への配慮を考え行動できる生徒を育成する。	1 時間厳守の徹底と自己管理能力の向上 2 特別な支援を必要とする生徒への対応	1-1 登校遅刻、授業遅刻を減らすため、遅刻入室カードを利用し、授業規律の確保とSHR実施を徹底する。 1-2 正しい服装での学校生活(女子のスカート丈・自転車安全指導)と私物管理を徹底させる。服装指導、立哨指導等を行う。 2 特別な支援を必要とする生徒の情報共有し組織づくり等、的確な対応をする。生徒指導課の支援により、SCの活用を促進。	1-1 基本的な生活習慣が身につく、遅刻者の減少が見られたか。 1-2 服装・頭髪違反が減り、教室等の私物管理ができたか。傘差しなどの危険運転がなくなったか。 2 生徒に対する情報の共有がなされ、特別な指導を必要とする生徒に的確な対応ができたか。SCの活用年間10回。	1-1 継続的な指導と遅刻カードの導入により、遅刻指導を受ける生徒は、減少した。基本的な生活習慣の確立に向けて、生徒指導部による巡回指導と全職員での校門指導を併せて実施している。授業遅刻が若干増加傾向にある。1-2 生徒指導件数は15件である。 2 5月から月1回スクールカウンセラーを招聘。延べ37人が相談を受けている。特別な支援が必要な生徒については、担任を中心に職員間での情報共有がなされ的確に対応している。10回実施。北部教育事務所SC,SSw生徒4名。延べ17回実施、対応。	B B B B
2	欠点保有者が増加傾向にあり、追認定で欠点を解消できない生徒がみられる。そのため、基礎学力の定着と学力向上を目指した学習指導を継続的に実施する。 また、資格取得をととして目的意識を持たせ、学習習慣の定着を図る。	1 成績不振者の減少と学習習慣の定着にむけた指導の充実 2 授業の工夫・改善	1-1 授業規律の徹底を図り、生徒表彰、資格取得を通して学習意欲を向上させる。資格の日程をHP・メール等でお知らせする。 1-2 各学習単元の重点ポイントを理解させ、個別指導により追考査の合格率を上げる。 2-1 公開授業週間、授業評価を充実させ、授業力向上を図る。 2-2 農業クラブ活動をはじめ、生徒会行事、部活動をより活性化させる。	1-1 学年末の成績優秀者や、資格取得に取り組む生徒が昨年と比べて増加したか。保護者宛てに、学校メールを活用する。 1-2 欠点保有者の減少。追考査・追認定試験の合格率が向上したか。 2-1 「生徒による授業アンケート」の結果、授業への満足度が80%を超えているか。 2-2 学校の活性化に向けて、生徒の各種行事への参加が増加したか。	1-1 2学期の成績優良者は、58名(前年比+12)でした。 1-2 欠点保有者は昨年度2学期と比較すると23名増加、欠点の数約14%に減少。追認定試験合格率54.9%(前年比+18.2%) 2-1 授業公開週間を実施し、授業評価を充実させている。 2-2 農業クラブ関東大会へ意見発表2名、プロジェクト発表2チームが出場。意見III最優秀、全国大会へ出場。全国大会(農業鑑定競技)で2名が優秀賞。家畜審査競技牛・豚の部県大会優秀賞12名。フラワーアレンジ競技全国大会出場。家庭クラブ研究発表会へ県大会出場。最優秀賞を受賞。2年後の全国大会へ出場。陸上部・剣道部県大会出場。書道部:学芸書道全国展「優秀団体賞」を受賞。未来を担う私たちの主張大会2年連続最優秀。インラインスケート全国2位、世界大会出場。	B A A A
3	大学への進学希望者は減少傾向にあるが、多くが第1志望の進学先に合格している。 自己理解を深め、希望する進路実現に向けた行動力を身につけさせるため、進路指導体制の充実を図る。	1 進路活動の充実と進路保証	1-1 進路ガイダンスを充実させ、継続系統的進路指導の導入やネット求人、進路のしおりを積極的に活用する。 1-2 各学年に応じて、生徒が主体的に取り組むための指導や、面接練習・小論文指導等の充実を図る。 1-3 地域関係事業所と連携し、県事業の「実践的職業教育グローバル事業」等を実施する。	1-1 進学・就職希望者決定率が向上したか。ガイダンスの満足度70%以上。 1-2 進学希望者と就職希望者の進路実現ができたか。進路未定者をなくすことができたか。 1-3 県事業を計画的に実施し、農業の専門性を生かした希望進路の実現ができたか。	1-1 就職の内定率については、同等でした。就職希望者数については、昨年比1.14倍となっている。 1-2 進学・就職希望者に対する、面接練習・小論文指導等、継続した丁寧な指導を実施している。 1-3 鉄道警察隊主催の「痴漢防止キャンペーン」に3名の生徒が参加した。1年生全員の就農体験事業では93軒の農家の協力を得られた。 また、生産力育成分野におけるスペシャリストの招聘、「次代を担う産業人材イノベーション」事業、緑の再生に取り組む事業等、専門分野における学びの機会を確保。特に果樹・ガーデニングでは2回実施。 1-4 利用状況としては、システムの調整も順調。	B B B B
4	報道機関を活用して熊農祭、学校説明会など本校の特色ある教育活動を積極的に情報発信している。 県事業を活用した特色のある教育活動を展開し、中学生や保護者をはじめとする地域社会と連携を深め、開かれた学校づくりをさらに推進する。	1 広報活動のさらなる充実 2 生徒募集活動の充実と募集定員の確保	1-1 各種フェスタ等に積極的に参加。各行事・部活動等の活躍を発信する。 1-2 中央実習棟内の販売所やアイスクリームプラントを活用し、農業の6次産業化事業を推進させ特色ある教育活動を展開し地域に貢献する。 2-1 学校説明会、一日体験入学、中学校訪問等を計画的・効果的に行う。 2-2 学校評議員会、学校評価懇話会を各学期に1回、年3回開催する。	1-1 ネットコモンズを活用し、HPで生徒の活躍をPRできたか。 1-2 保護者や地域住民の来校者数が増えたか。 2-1 募集定員を確保。最終倍率の状況が1.0倍以上になったか。 2-2 学校評議員会、学校評価懇話会における意見を、学校改善に活用することができたか。	1-1 HPに電子パンフレット等掲載。各種フェスタに出席。ふかや花フェスタ参加、国際バラとガーデニングショウでは7年連続出場。最優秀賞受賞。人気投票1位。また、「頑張る熊農生」発行の充実により、生徒の活躍をPRできている。メール配信による情報提供の充実。 1-2 日本赤十字献血センターと連携『くまのうあいず』を配布200個/月、2400個/年。 2-1 学校説明会(2回)に生徒285名参加。11/15・30にミニ学校説明会を実施。また、体験入学(2回)には生徒400名が参加。上級学校訪問21件の受入。12月15日報道発表進路状況。全体で1.05倍。 2-2 学校評議員会及び学校評価懇話会が順調に開催できている。3回実施。	B A A A

学校関係者評価
実施日 平成31年2月4日
学校関係者からの意見・要望・評価等
<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣やマナー等は、継続していくことで効果が出てくる。継続して指導をお願いしたい。 SC、SSWの利用について、延べ人数と言うことは、何人かの生徒・保護者の利用で、まだまだ必要とする生徒・保護者の為に招聘回数の検討をお願いしたい。 基礎学力の定着には、授業改善の他に生徒自身の取り組み姿勢が必要。 来年度からの「学びの基礎診断」の活用も期待できたらと考える。 就職で農業高校は、普通高校などと比較しても有利である。資格取得など積極的に遂行し、生徒の進路実現に取り組んで欲しい。 最近、農業が見直されている。新規就農を考える生徒へサポートを県の関係機関や市町村、農家などグループ化して実施する。農作放棄地の利用も考えて。 報道やホームページ等の活用は積極的に進めるべきである。 12月現在の経過ではあるが、ここ数年間で見られない生徒募集で良かった。しかし、最終的な申込の結果はまだなので頑張ってもらいたい。